

# 逃げまどう市民たち

大坂大空襲と近畿・四国の空襲

安齋育郎 文／監修

第4巻



# 原爆投下の第1目標だった

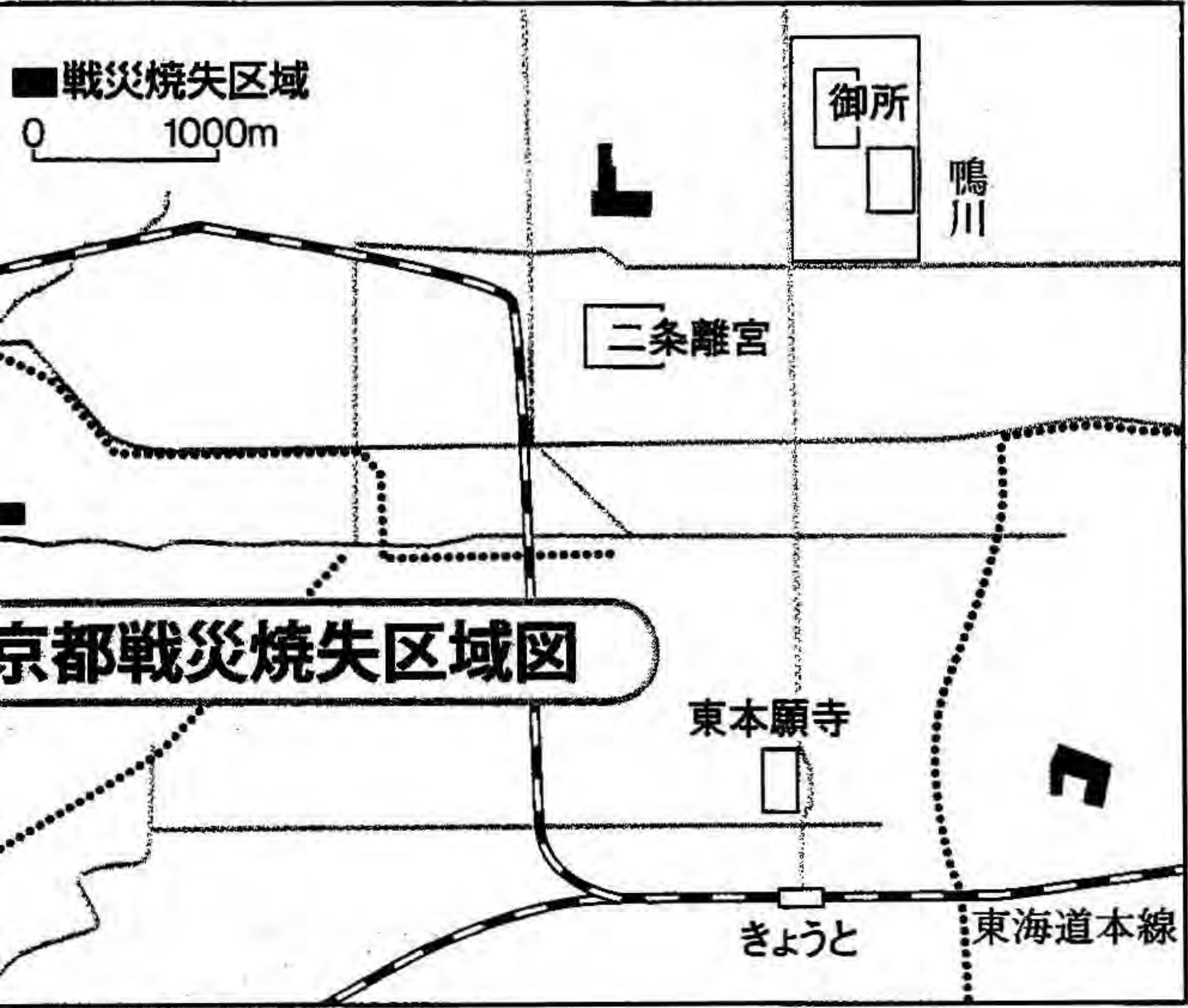
京都市は1945（昭和20）年7月下旬まで、アメリカによる原爆投下の第1目標でした。三方を山に囲まれた人口密集都市で、軍事施設もあり、日本人にとって重要な宗教都市でもあった上、知識人が多いため原爆の意味を理解して政府に降伏を働きかけることも期待されたのです。しかし、古い天皇の都だった信仰のふるさと京都に原爆を落とせば、日本人の心をアメリカから離反させる恐れもあったため、アメリカは京都への原爆投下を断念しました。ところが、戦後、「京都の文化財を保護するため」という理由が広められました。

原爆投下予定地だったこともあって、京都への空襲は手控えられていましたが、それでも1945年1月16日東山区馬町の東山空襲（死者41人、重軽傷56人、壊れた家141戸）をかわきりに、3月19日右京区春日、4月16日、5月11日上京区京都御所、6月26日上京区出水（西陣空襲）などに空襲が加えられました。最も大きかったのは西陣空襲で、6月26日の午前9時半ごろ、6～10機のB29の編隊が出水地域に50キロ爆弾や250キロ爆弾7発を投下しました。約400m四方の地域が被災し、死者50人、負傷者300人以上、被災者850人、全壊71戸、半壊84戸、一部損壊137戸に及びました。

京都市以外の京都府下にも空襲がありました。7月29・30日、アメリカの艦載機が舞鶴市に空襲を加え、舞鶴海軍工廠や宮津湾・伊根湾に停泊していた艦艇が攻撃されました。海軍工廠には1万人以上の人々が働いていましたが、午前8時ごろ模擬原爆（パンプキン爆弾）が投下されて女子挺身隊員や師範学校の生徒など97人が犠牲になりました。海軍工廠は被災の事実を

すぐには被災者の遺族にも伝えないように命じましたが、教官は命令に従わず、長文の手紙を送りました。

翌30日の宮津湾への攻撃では関釜連絡船・慶尚丸や駆逐艦・初霜などが被害を受け、100人以上の乗組員が死亡しました。また、伊根湾への攻撃でも潜水艦・長鯨が被弾し、105人が戦死、100人以上が負傷しました。この他、銃撃によって舞鶴市民20人以上が



主な空襲被害地



犠牲になりました。

また、7月29日には長岡京市神足地区もアメリカの艦載機による銃撃を受け、1人が死亡、数人が負傷しました。7月の臨時府議会で三好重夫府知事は、「勝利は目前」と演説しましたが、日本には敗北が迫っていました。

京都、馬町の空襲を受けた民家（「京都空襲」から）



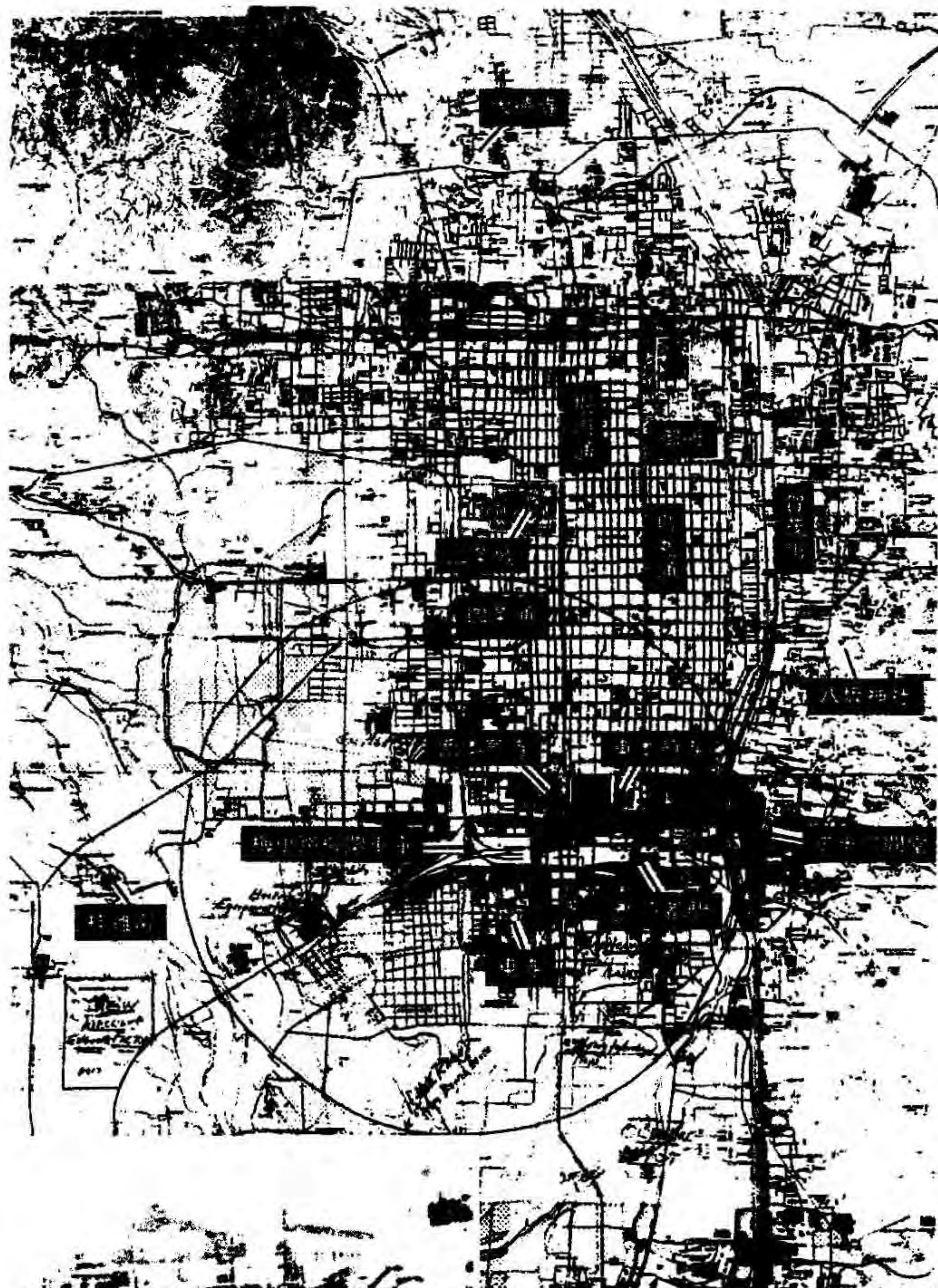
西陣空襲で破壊された民家で呆然とする人（「京都空襲」から）

馬町空襲直後、焼け跡に救出に集まった人々（「京都空襲」から）



乙訓郡の空襲で弾の跡の残る日本輸送機の大煙突（「京都空襲」から）

空襲後の舞鶴港（押見直義氏提供「京都空襲」から）



アメリカ軍の資料にあった原爆投下の照準点を示した京都の地図（「京都に原爆を投下せよ」から）



9784406051521

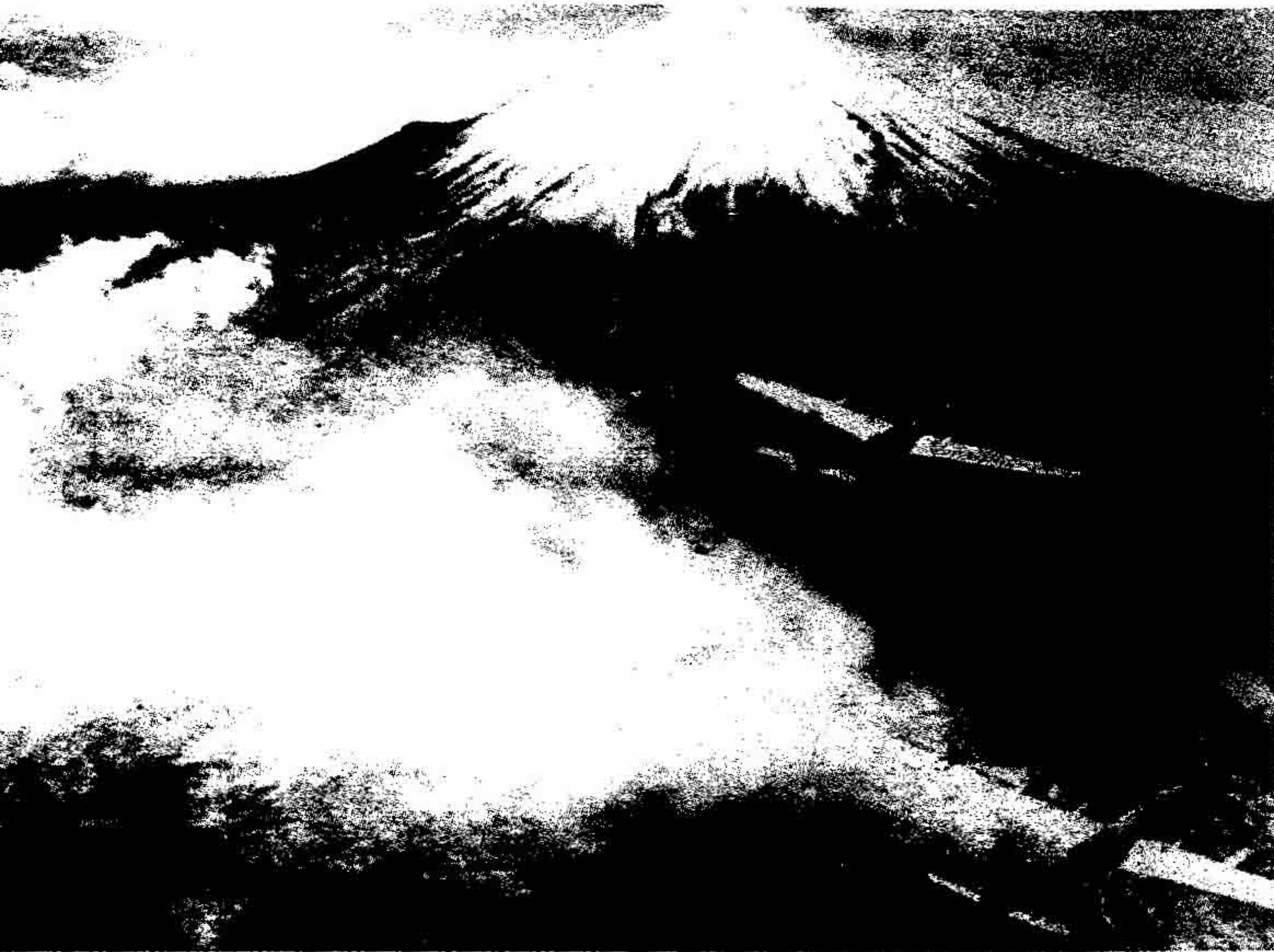


1928321022008

ISBN978-4-406-05152-1

C8321 ¥2200E

定価 本体2,200円 (税別)



ビジュアルブック  
語り伝える 空襲

第4巻

# 逃げまどう市民たち

—大阪大空襲と近畿・四国の空襲

15022013 (庚)

第4巻  
逃げまどう市民たち  
大阪大空襲と近畿・四国の空襲